

黒糖どらやき

黒と赤 新発売

カステラには
沖縄県『波照間島』の黒糖
つぶ餡には北海道産
あずきを使用。



1個118円

※「黒と赤」は、直営店にてご用命をお待ち申し上げております。
表示価格は消費税込みです。



品質は語る……

白松が モナカ本舗

[晩翠草堂] そもそも 土井晩翠先生って どんな人だったの？

ばんすいそうどう



ビルが立ち並ぶ青葉通りの中で、この一角だけは昭和のよう。



■晩翠草堂の概要

【所在地】仙台市青葉区大町1-2-2

電話番号：022-224-3548

開館時間：9:00～17:00

休館日：月曜日

駐車場：なし

入館料：無料

【アクセス】公共機関

JR仙台駅前西口バスプールから

市営バス青葉城址循環で7分

晩翠草堂前下車すぐ。



土井晩翠

青葉通に面した晩翠草堂。出世作の詩集「天地有情」の題字を刻んだ石碑が立つ。

「がにまつわる晩翠先生とのエピソード」
モナカも生まれ、店に立ち寄ることもあった晩翠先生。「白松最中」から「白松が最中」への改名を相談すると、「どうか。考えておく」と、店を出た後すぐに引き返して言われました。「そうしろそうしろ。君が代とも言うし、おらが春とも言う」。こうして、白松が…を名乗るようになりました。

10月19日の「晩翠忌」には、仙台城跡の「荒城の月」の石碑の前で、土井晩翠にゆかりのある小学校の児童や市民有志が「荒城の月」を歌い継ぎ、仙台文学館で記念行事が催されます。仙台市民の、晩翠先生への敬慕は今も変わりません。

そのことを物語るのが晩翠草堂です。震災で自宅も膨大な蔵書も失った晩翠先生を励まそうと、戦後ほどない昭和24年、教え子や市民の寄付によって建てられました。設計に当たったのは、仙台生まれの建築家で、震災に遭った瑞鳳殿の再建も指揮した小倉強（おぐらつよし）。

板塀を巡らした閑静な日本家屋は、今も昭和の面影を漂わせています。当時のままの室内には資料が展示され、多くの見学者が訪れています。

教授を務めた旧制二高や東北帝大（共に現在の東北大学）で多くの若者を育て、求めに応じて200を超える学校の校歌を作詞し、市井の人々とも気さくに交わった人柄ゆえでした。

「荒城の月」（滝廉太郎作曲）。この名曲の作詩者が、詩人であり英文学者である土井晩翠（どいばんすい）です。

晩翠は明治4年、現在の青葉区木町通りの裕福な質店に生まれました。昭和27年に80歳で亡くなるまで、東京帝大に進んでからの一時期をのぞいて、仙台で生涯を送った晩翠が、最後に暮らした住まいが、「晩翠草堂」です。

ヨーロッパ文学の翻訳を先駆けた文学者（ギリシア叙情詩「イーリアス」「オデュッセア」等）、日本の近代詩を確立して島崎藤村と共に「晩藤時代」を築いた詩人、文化勲章受賞者……。数々の輝かしい足跡を残す晩翠は、仙台っ子からは敬愛を込めて「晩翠先生」と呼ばれ、慕われました。



土井晩翠作詩「荒城の月」



庭から内部を望む